

健康問題からみた 子どもの遊びの変遷に関する一考察

棚橋昌子

A Study on the Change of
Japanese Children's Play considering their Health

Masako Tanahashi

1. はじめに

2001年9月に行われた愛知国際女性映画祭への出品作品のなかに野中真理子監督「子どもの時間」という作品があった。内容は野中監督のお子さんが通う埼玉県の「いなほ保育園」の子どもたちの生活を四季を追って描いたドキュメンタリーである。観客からは現代の平均的子どもの世界と比較して、田園を駆け廻り家畜の世話をし、顔を真っ黒にして食事する子どもに「今の日本のことか?」と多くの人から感嘆の声があがった。しかし、これらは1950年以前の日本ではごく平均的な子どもの世界であった。

1960年代から始まった高度経済成長期の技術革新や大量生産により、生活用品は豊富になったが、工場建設や住宅建設のために自然環境の破壊が進行したことは周知のことである¹⁾。1990年代になると経済中心から人間中心への回帰志向の気運が高まった。

子どもの健康問題については、体位は向上したが、1970年頃から保育園や学校現場から子どものからだのおかしさが指摘されるようになり²⁾、1979年に全国調査が行われた。2000年にも同種の調査が行われ、「アレルギー」と「すぐ疲れる」という項目が上位にあがっている³⁾。さらに体温調節がうまくできない子や、近視の子が多くなっているなどの問題が指摘されている⁴⁾。その背景として、就寝時刻が遅いこと、食生活の偏りとともに戸外遊びの減少があげられている。

遊びの変遷については既にいくつかの報告がある⁵⁾。筆者は本学短大の「保育学」の授業で遊びの変遷をとりあげ、学生自身がどんな遊びをしていたかを調べる一方で、祖父母・父母・現在の子どものについても調査した。本論では、子どもの健康増進(障害)の視点から遊びの変遷をまとめたので報告する。

2. 調査方法

調査時期は2001年1月であり、調査対象は本学短大の保育学受講者132人である。テーマ

に「子どもの遊び」をとりあげ、自分が子どもの頃の遊びを記述すること、冬休みに祖父母・父母からどんな遊びをしたか聞き取り調査を行うこと、現代の子どもの遊びを観察することの課題をレポートにまとめさせた。今回は、このうちデータ化できた124人を分析対象とした。遊び年齢としては6才～12才を想定しているが若干異なる場合もありうる。

現在の子どもについては2000年頃の子どもとした。学生自身については、1980年前後の生まれであるので、1985年～1990年頃の子どもと推定した。父母および祖父母の年代を推定するために、分析対象者124人の父母および同居祖父母の生年を調査した。父母については生年の中央値は1951年であり、1946年～1956年に82%が分布していることから、1955年～1965年頃の子どもと推定した(図1)。同居祖父母については生年の中央値は1924年であり、1919年～1929年に70%が分布していることから、1930年～1940年頃の子どもと推定した(図2)。なお、今回の調査では同居のみでなく別居の祖父母からも聞き取り調査を行ったので、年齢分布に若干差異があることが想定される。さらに調査対象が女子のみであることを付記する。

図1 生年の分布(父母239人)

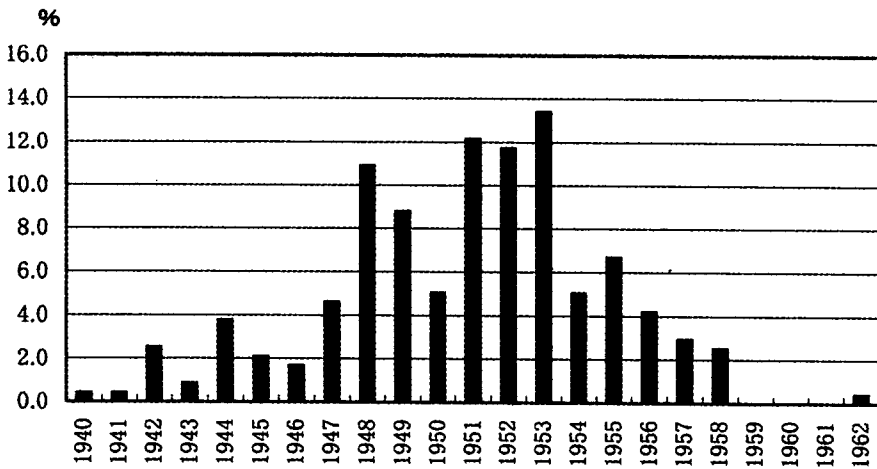
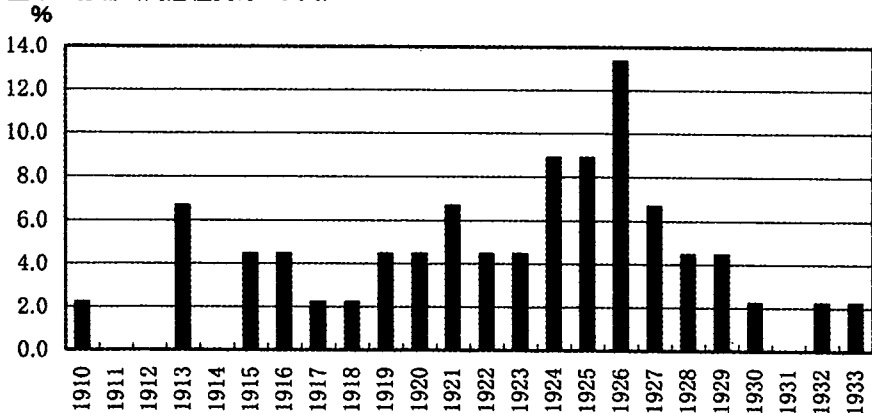


図2 生年の分布(同居祖父母45人)



ここでは次の年代の子どもの遊びと仮定した。

- ① 1930年（昭和5年）～1940年（昭和15年）頃の遊び 祖父母（調査時70才以上）
- ② 1955年（昭和30年）～1965年（昭和40年）頃の遊び 父母（調査時42才～58才）
- ③ 1985年（昭和60年）～1990年（平成2年）頃の遊び 自分（調査時19才～21才）
- ④ 2000年頃の遊び 今の子（調査時6才～12才）

3. 結果

遊びの名称は時代により、地域により異なっていることが多いので、内容により分類した。また、遊びは多種多様であるので、同種のをまとめて分類した（表1）。

表1	馬のり（タイヤとび、馬とびを含む）
	缶けり（缶うま、缶ぼっくりを含む）
	フラフープ（ホッピングを含む）
	ブランコ（すべり台、ジャングルジムを含む）
	ソフトボール（野球、キャッチボール、キックベースを含む）
	ローラースケート（ローラーブレード、スケートボードを含む）
	人形あそび（着せ替え、リカちゃん、ぬいぐるみを含む）
	ままごと（各種ごっこ遊びを含む）
	歌あそび（はないちもんめ、とりゃんせ、かごめなど）
	かるた（いろはかるた、百人一首など）

1) 概要

- ① 1930年（昭和5年）～1940年（昭和15年）頃の遊び（付表1）
祖父母からの聞き取り調査であるが、124人のうち記入なしのものが4人あり、そのうち2人は「手伝いで遊ぶ時間はなかった」と回答している。120人から延べ863の回答があり、一人平均7.2種であった。室内遊びが265（30.7%）であり、戸外遊びが598（69.3%）であった。
- ② 1955年（昭和30年）～1965年（昭和40年）頃の遊び（付表2）
父母からの聞き取り調査であるが、124人全員から延べ1054の回答があり、一人平均8.5種であった。室内遊びが261（24.8%）であり、戸外遊びが793（75.2%）であった。
- ③ 1985年（昭和60年）～1990年（平成2年）頃の遊び（付表3）
学生自身が子どもの頃を思い出して記述したもので、124人から延べ1035の回答があり、一人平均8.3種であった。室内遊びが370（35.7%）であり、戸外遊びが665（64.3%）であった。
- ④ 2000年頃の遊び（付表4）
学生が今の子どもの間に聞いたり観察したりして回答したもので、124人のうち記入なしが2人であった。122人から延べ598の回答があり、一人平均4.9種であった。室内遊

びが 425 (71.1%) であり、戸外遊びが 173 (28.9%) であった。

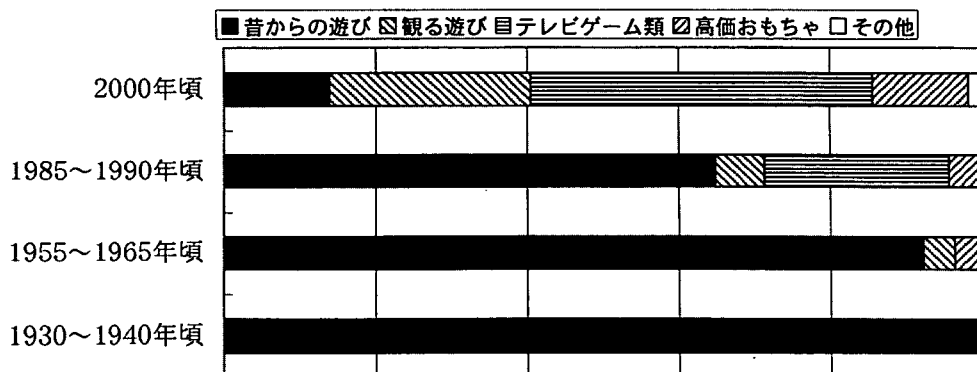
一般的な傾向として、遊びの種類は戸外遊びが次第に少なくなり、室内遊びが多くなる傾向がみられる。1955年(昭和30年)～1965年(昭和40年)頃には戸外遊びが75.2%を占めていたのに対して、2000年頃には室内遊びが71.1%を占め、戸外遊びと室内遊びの比率が逆転している。

2) 室内遊びの変遷

室内遊びの延べ数は、1930年(昭和5年)～1940年(昭和15年)頃は265、1955年(昭和30年)～1965年(昭和40年)頃は261、1985年(昭和60年)～1990年(平成2年)頃は370、2000年(平成12年)頃は425となっている。これらの室内遊びの内容について分析した(図3)。

1930年(昭和5年)～1940年(昭和15年)頃には、1位はお手玉(91人)であり2位はおはじき(46人)であった。この頃の遊びは手作りまたは簡単なおもちゃを使う遊びが中心で、これを「昔からの遊び」とする。1955年(昭和30年)～1965年(昭和40年)頃にも、1位はお手玉(41人)であり2位はままごと(40人)であった。遊び内容は分散しているが、昔からの遊びが92.3%を占め優勢であった。しかし、テレビやまんがをみるというような「観る遊び」(4.6%)も現われ、さらにプラモデルのような「高価おもちゃ」(3.1%)も出始めた。1985年(昭和60年)～1990年(平成2年)頃になると、1位は人形遊び(72人)であるが2位はファミコン(71人)となり、遊びの傾向に変化がみられた。昔からの遊びが64.9%を占めてはいるが、ファミコンなどのテレビゲームが24.3%となり、さらに漫画・テレビなどの観る遊び(6.5%)や高価おもちゃ遊び(4.3%)も増加している。2000年(平成12年)頃になると、1位はテレビゲーム(114人)となり、ほとんどの子がテレビゲームで遊ぶ時代となった。ちなみに2位はカードゲーム(46人)で、これも人気キャラクターのカードを集める遊びであり、テレビやまんがを観る遊びの影響を受けたものである。昔からの遊びは13.9%と

図3 室内遊びの変遷



減少し、かわって高価おもちゃ遊びが 12.7% を占めるに至った。

お手玉に代表される昔からの遊びが室内遊びのなかに占める割合は、古い年代順に 99.6%, 92.3%, 64.9%, 13.9% と減少している。逆に高価なおもちゃを使う遊びは古い年代順に 0%, 3.1%, 4.1%, 12.7% と増加し、特にテレビゲームは 1985 年（昭和 60 年）～ 1990 年（平成 2 年）頃には 24.3% であったが、2000 年（平成 12 年）頃には 45.2% となり、1985 年以後急増した。テレビゲームや高価おもちゃ遊びの増加にみられるように、遊びにも費用がかかる時代となったことが伺える。

3) 戸外遊びの変遷

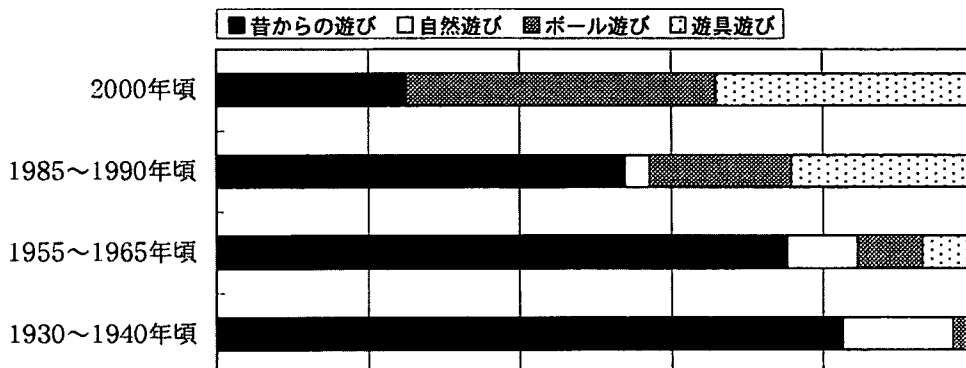
戸外遊びの延べ数は 1930 年（昭和 5 年）～ 1940 年（昭和 15 年）頃には 598, 1955 年（昭和 30 年）～ 1965 年（昭和 40 年）頃には 793, 1985 年（昭和 60 年）～ 1990 年（平成 2 年）頃には 665, 2000 年（平成 12 年）頃には 173 であり、2000 年頃に急減している。これらの戸外遊びの内容について分析する（図 4）。

1930 年（昭和 5 年）～ 1940 年（昭和 15 年）頃には、1 位はこま（46 人）2 位はめんこ（45 人）であり、3 位はなわとび・かくれんぼ（42 人）であり、路地や原っぱでの遊びが 82.6% を占めていた。これらを「昔からの遊び」とする。また、魚とりのような自然を相手にした「自然遊び」が 14.5% であった。1955 年（昭和 30 年）～ 1965 年（昭和 40 年）頃には、1 位は缶けり（74 人）2 位はめんこ（61 人）であり、昔からの遊びが 75.3% を占めていた。一方自然遊び（9.2%）が減少し、「ボール・遊具遊び」が 15.5% と増加する傾向がみられた。1985 年（昭和 60 年）～ 1990 年（平成 2 年）頃になると、1 位はドッジボール（71 人）となり 2 位がおにごっこ（56 人）であったが、おにごっこの変形として「たかたか鬼」や「だるまさんがころんだ」などバラエティーに富んだ遊びが流行した。路地や広場での昔からの遊びが 53.9% と半数以上を占めていたが、ボール遊び（18.6%）・遊具遊び（24.2%）が増加した。遊具では一輪車やローラースケートが流行した。2000 年（平成 12 年）頃になると、1 位はサッカー（29 人）2 位はソフトボール（23 人）であり、ボール遊びが 41% となった。また、遊具遊びも 34.1% と急増した。一方昔からの遊びは 22% となり、自然遊びは 2.9% と減少した。

路地や原っぱでの昔からの遊びは古い年代順に 82.6%, 75.3%, 53.9%, 24.9% と減少し、同様に自然遊びも古い年代順に 14.5%, 9.2%, 3.3%, 2.9% と減少した。一方、ボール遊び・遊具遊びは古い年代順に 2.9%, 15.5%, 42.8%, 66.4% と増加した。安心して遊ぶことができる路地や自然が失われた代償として、公園が整備され、校庭が開放されたが自然の減少に伴って子どもの遊びも変化した。

以上、不十分な資料ではあるが子どもの遊びの変遷をみてきた。これは子どもをとりまく社会の変化を反映していると考えられる。

図4 戸外遊びの変遷



4. 考察

遊び研究にも波（流行）がある。第1の波は1920年代で、文化の担い手である子どもによる文化、そして文化としてのよい遊びを伝えることを意識した時期である。第2の波は1950年頃で、遊び方から子どものパーソナリティーを理解しようとする風潮である⁹⁾。第3の波は1970年頃で、子どもの発育・発達を保障する遊び環境を準備することを意識した時期である。この時期には、遊びに関するいくつかの理論が提唱され、子どもの遊びを医学や大脳生理学などの理論と結びつけて考えるようになり、遊びの理論化が進んだ⁹⁾¹⁰⁾。子どもの生活時間調査によって遊び時間の減少が指摘され、遊びの量的・質的变化が注目されるようになった。第4の波は1990年頃で、経済も低成長の時期に入り、物質中心の生活によって失われたものに対する反省の気運が高まった。1990年には合計特殊出生率が1.54となり、1966年の丙午年に記録した1.57以下となり、少子化が社会問題となった¹¹⁾。子どもの生活から「3間（仲間・時間・空間）」がなくなったと指摘され、おとなが子どもの遊び環境を憂慮するようになった。深谷は遊びの変化について、遊びはなくなったのではなく、遊び方が変わったと指摘し、①集団から一人遊びへ ②戸外遊びから室内遊びへ ③身近にあるものを利用する遊びから商品に依存する遊びへ ④集中と持続遊びから軽いこまぎれ遊びへ変化したとまとめている⁷⁾。

子どもの健康の観点からみると、1920年代は1歳未満の乳児死亡率が150以上（出生1000人に対して150人以上死亡する）を示し¹¹⁾、乳児死亡と伝染病対策が課題であり、健康な子どもの遊びは社会問題とならなかった。1950年頃は食料不足対策に迫られ、ユニセフからの食糧援助によって学校給食が始まった。遊びと健康については、雪国では外遊びをしない子はクル病になりやすいという報告があり⁹⁾、子どもの発育にとって日光と緑が必要であると指摘された。1970年頃になると、大気汚染などのいわゆる公害によって、喘息児の増加など子どもの健康が脅かされている事例が報告された¹²⁾。遊びとの関連では、戸外遊び時間が少ない子は「湿疹がでやすい」「かぜをひきやすい」というような微症状のある子が多いこと

が報告された⁹⁾。また、保育園や学校現場から子どものからだのおかしさが指摘されるようになり、1979年に全国調査が行われた⁴⁾。正木は子どものからだのおかしさの経年調査を行い、2000年調査では「すぐ疲れたという子」や「アレルギーの子」が上位を占めていることを報告している¹³⁾。逢坂は起床時体温が36℃以下の子が増加しており、女子では一人っ子で非活動的な集団に36℃以下の低体温児が高率であることを報告している¹⁴⁾。いずれも子どもが活発にからだを動かすことが少なくなったことを憂慮している。

今回の調査は調査対象が女子のみであるという限界はあるが、戸外遊びが1930年(昭和5年)～1940年(昭和15年)頃には69.3%、1955年(昭和30年)～1965年(昭和40年)頃には75.2%、1985年(昭和60年)～1990年(平成2年)頃には71.1%であり、70%以上を占めていたが、2000年頃には戸外遊びが28.9%と急減している。そのなかで魚とりや虫とりなどの自然遊びが減少したことは、都市化の進行に伴って遊び環境の変化が顕在化してきたと考えられる¹⁵⁾。昔からの戸外遊びをみると上位にあがっている「おにごっこ」「かくれんぼ」「かんけり」「なわとび」などは、路地でもできるもので、それほど広い場所を必要とする遊びではない。むしろ「ドッジボール」「ソフトボール」の方が広い場所を必要とするともいえる。1985年(昭和60年)～1990年(平成2年)頃には昔からの遊びが50%以上を占めていたが、2000年には25%と減少し、逆にボール遊び(41%)、遊具遊び(34%)が急増している。昔からの遊びは無料でできる遊びであり、経済力のない子どもの遊びとして優れたものであり、継承することに意義がある。しかし、ボール遊びも全身を使って神経系統を動員して遊ぶものであり、自己防衛機能を発達させ、全身疲労を引き起こす要素をもっている遊びといえる¹⁶⁾。深谷が指摘しているように⁷⁾、筆者は遊ぶ場所があっても子どもが遊ぼうとしないことに大きな問題を感じる。現代の戸外遊びが必ずしも全身遊びということではなく、「全身疲労→熟睡」という構図にならないところに課題がある。「子どもは遊ぶことが仕事である」とするならば、家事を含めたおとなの労働形態が、全身疲労を引き起こさなくなっていく過程と符合すると考えられる¹⁷⁾¹⁸⁾。また、遊具遊びの多くは一人遊びであり、塾やおけいこのために時間を気にして遊ぶ場合には適している遊びである。これはおとなが企業によって生活時間を管理されていくように、子どもも遊び時間も含めて時間を管理されていく過程であろう¹⁹⁾。

室内遊び時間が戸外遊び時間に比較して多くなっていることは既に報告がある⁶⁾⁷⁾。

本調査でも2000年頃には室内遊びが70%を占めるに至った。内容をみると、お手玉、人形遊び等の昔からの遊びは1955年(昭和30年)～1965年(昭和40年)頃には92.3%、1985年(昭和60年)～1990年(平成2年)頃には64.9%を占めていたが、2000年頃には13.9%のみとなった。

1980年代にパーソナルコンピュータがおとなの職場に導入されはじめ、産業現場においてパソコンを長時間使用する場合には、眼精疲労や遠近の調節機能障害、頸肩腕障害をひこおすことが報告された²⁰⁾²¹⁾。1983年にはファミコンが子どもの遊びの仲間入りをした。1985

年（昭和60年）～1990年（平成2年）頃にはファミコン・テレビゲームは24.3%であったが、2000年には45.2%に達した。テレビゲームは機器の購入に高額の費用がかかり、さらに、ソフトも5千円～1万円と高く、子どもは遊ぶために多額の小遣いを必要とするようになった。子どもの健康への影響については、いわゆる「目が悪くなる」ことが指摘された。1日3時間以上テレビゲームをする子は調節機能が低下し、近視が高率となることが報告されている²²⁾。産業現場ではVDT作業の1回の連続作業は1時間、1日に4時間以内とするようにガイドラインが提案された²³⁾。子どもの遊びについては拘束時間があいまいであるので、産業保健のガイドラインを適用することが難しい。しかし、眼精疲労は局所疲労であり、テレビゲームのような精神的興奮が残る場合には睡眠障害を伴い、蓄積疲労となることが考えられる。最近、距離感のわからない子があるとの指摘がある。ボールと自分との距離は両眼視によっておしはかるのであるが、これができずに目にボールがあたるとの指摘である。お手玉やあやとりなどの昔からの遊びもテレビゲームも手指を使う遊びであり、手指は脳の発達を促すといわれている²⁴⁾²⁵⁾。昔からの遊びとテレビゲームとの差異はどこにあるのであろうか。テレビゲームは極度の局所疲労をひきおこすと考えるが、今後の検討課題である。

子どもの周りから自然が失われたことを憂慮し、自然らしい公園をつくるおとなに対して、中沢は子どもが「自然（風景のみではない）」を感じるのに必要な条件はおとなに拘束されないことであると指摘している²⁶⁾。空間のみを保障しても時間を拘束するおとなのもとでは、子どもは管理された遊びしかできないことになる。戸外遊び、特に自然あそびや昔からの遊びが減少してきたことが、こどもの健康にどんな影響をおよぼすのか、テレビゲームのような室内遊びが増加することが子どもの健康にどんな影響をおよぼすのか、今回は文献による考察を行った。筆者は子どもの遊びが体温・皮膚温や脈波・血圧などの自律神経系に与える影響に関心をもっており、今後そのような面から研究をすすめていきたいと考えている。

5. まとめ

子どもの健康問題を考える視点から子どもの遊びの変遷をまとめ、次のような結論を得た。

1. 戸外遊びは、1930年（昭和5年）～1940年（昭和15年）頃には69.3%、1955年（昭和30年）～1965年（昭和40年）頃には75.2%、1985年（昭和60年）～1990年（平成2年）頃には64.2%、2000年頃には28.9%であり、2000年頃には激減した。
2. 室内遊びは1930年（昭和5年）～1940年（昭和15年）頃には30.7%、1955年（昭和30年）～1965年（昭和40年）頃には24.8%、1985年（昭和60年）～1990年（平成2年）頃には35.7%、2000年頃には71.1%であり、2000年頃には急増した。
3. 戸外遊びの主な特徴は、1955年（昭和30年）～1965年（昭和40年）頃には缶けり、めんこなどの昔からの遊びが75.3%であり、1985年（昭和60年）～1990年（平成2年）頃にはドッジボールが1位となり、2000年頃にはサッカー、ソフトボールなどのボール遊びが41%を占めるようになった。

4. 室内遊びの主な特徴をみると、1955年（昭和30年）～1965年（昭和40年）頃には、お手玉、ままごとなどの昔からの遊びが92.3%であったが、1985年（昭和60年）～1990年（平成2年）頃には人形あそび、ファミコンが上位を占め、2000年頃にはテレビゲームが45.2%を占めるようになった。
5. 自然遊びは1930年（昭和5年）～1940年（昭和15年）頃には14.5%、1955年（昭和30年）～1965年（昭和40年）頃には9.2%であったが、1985年（昭和60年）～1990年（平成2年）頃には3.3%、2000年頃には2.9%となり、都市化が進行するにつれて周りの自然が失われたことを反映している。
6. 戸外遊びでは遊具遊びが増加し、室内遊びではテレビゲームが増加し、一人で遊ぶことができる遊びが多くなった。子どもの時間が管理され、遊びも時間を細切れに使う生活に合わせた遊びになったことを反映している。
7. 家事労働も含めたおとなの労働が全身疲労から局所疲労に変化してきたように、子どもの遊びも長時間のテレビゲームによる眼精疲労に代表されるような、局所疲労を引き起こす遊びが増加する傾向がみられる。

遊びの健康への影響については、文献による考察が中心となったが、子どもの体温や脈波などを測定することにより、自律神経系への影響がみられるかどうか、今後の検討課題としたい。

付表1 1930年～1940年頃の子どもの遊び

	数	%
室内遊び	265	30.7
戸外遊び	598	69.3
合計	863	100.0

室内遊び

ブロック	遊び	数	小計
昔からの遊び	お手玉	91	264(99.6)
	おはじき	46	
	あやとり	42	
	かるた	29	
	ままごと	22	
	おりがみ	8	
	人形あそび	8	
	しょうぎ	6	
	トランプ	3	
	あみもの	3	
	かみしばい	2	
	つみき	1	
	絵、絵本	1	
	いすとり	1	
はんかちおとし	1		
観る遊び	まんが	1	1(0.4)
計			265(100.0)

戸外遊び

ブロック	遊び	数	小計		
昔からの遊び (路地遊び)	かくれんぼ	42	314(52.5)		
	なわとび	42			
	竹馬	38			
	たこあげ	31			
	いしけり	27			
	ごむとび	24			
	おにごっこ	19			
	竹とんぼ	18			
	かんけり	15			
	けんけん	15			
	ちゃんばら	14			
	うたあそび	8			
	うまとび、うまのり	7			
	おしくらまんじゅう	3			
	くつつくし	3			
	すもう	3			
	戦争ごっこ	3			
	基地づくり	2			
	こま	こま		46	180(30.1)
めんこ		45			
まりつき		25			
びーだま		23			
けんだま		16			
陣取り		14			
輪まわし		6			
はねつき		5			
自然遊び		魚つり、魚とり	23	87(14.5)	
		虫取り	20		
	木登り	12			
	草、花あそび	12			
	川あそび	5			
	雪あそび	5			
	海、山あそび	4			
	そり	3			
	きもだめし	2			
	かけふみ	1			
ボール遊び	ドッジボール	7	12(2.0)		
	ソフトボール	5			
遊具遊び	ローラースケート	1	1(0.2)		
	鉄棒	2	4(0.7)		
	ブランコ	1			
	砂遊び	1			
計			598(100.0)		

付表2 1955年～1965年頃の子どもの遊び

	数	%
室内遊び	261	24.8
戸外遊び	793	75.2
合計	1054	100.0

室内遊び

ブロック	遊び	数	小計
昔からの遊び	お手玉	41	241(92.3)
	ままごと	40	
	あやとり	38	
	人形あそび	37	
	トランプ	24	
	おはじき	23	
	かるた	17	
	かみしばい	6	
	あみもの	5	
	しょうぎ	5	
	おりがみ	4	
つみき	1		
観る遊び	テレビ	8	11(4.2)
	まんが	3	
	カードあつめ	1	
高価おもちゃ	プラモデル	8	8(3.1)
計			261(100.0)

戸外遊び

ブロック	遊び	数	小計		
昔からの遊び	かんけり	74	425(53.6)		
	ごむとび	52			
	かくれんぼ	50			
	なわとび	46			
	おにごっこ	33			
	竹馬	27			
	うまとび, うまのり	23			
	いしけり	22			
	たこあげ	21			
	けんけん	18			
	だるまさん	17			
	ちゃんばら	10			
	おしくらまんじゅう	7			
	基地づくり	6			
	ぼこぺん	5			
	どろけい	4			
	うたあそび	4			
	くつかくし	3			
	戦争ごっこ	2			
	すもう	1			
自然遊び	めんこ	61	172(21.7)		
	びーだま	40			
	こま	31			
	陣取り	17			
	けんだま	7			
	竹とんぼ	7			
	まりつき	7			
	輪まわし	2			
	ボール遊び	魚つり, 魚とり		29	73(9.2)
		虫取り		16	
川あそび		8			
木登り		8			
草, 花あそび		8			
雪あそび		2			
きもだめし		1			
海, 山あそび	1				
遊具遊び	ソフトボール	34	67(8.5)		
	ドッジボール	30			
	バドミントン	3			
遊具遊び	フラフープ	40	44(5.5)		
	ローラースケート	4			
	ブランコ	5	12(1.5)		
	鉄棒	4			
	砂遊び	3			
計			793(100.0)		

付表3 1985年～1990年頃の子どもの遊び

	数	%
室内遊び	370	35.7
戸外遊び	665	64.3
合計	1035	100.0

室内遊び

ブロック	遊び	数	小計
昔からの遊び	人形あそび	72	240(64.9)
	トランプ	53	
	ままごと	47	
	あやとり	20	
	いすとり	10	
	はんかちおとし	9	
	おりがみ	7	
	お手玉	6	
	絵, 絵本	6	
	つみき	4	
	あみもの	3	
	おはじき	2	
	かるた	1	
観る遊び	まんが	12	13(3.5)
	テレビ	1	
	カードあつめ カードゲーム	9 2	11(3.0)
テレビゲーム	ファミコン	71	90(24.3)
	テレビゲーム	18	
	パソコン	1	
高価おもちゃ	プラモデル	6	15(4.1)
	パズル	3	
	ブロック	3	
	ラジコン	2	
	レジスター	1	
	カラオケ	1	1(0.2)
計			370(100.0)

戸外遊び

ブロック	遊び	数	小計		
昔からの遊び	おにごっこ	56	350(52.7)		
	かくれんぼ	46			
	どろけい	45			
	ごむとび	44			
	なわとび	35			
	だるまさん	32			
	ぼこぺん	26			
	かんけり	17			
	たかたか	17			
	基地づくり	8			
	竹馬	7			
	けんけん	6			
	うたあそび	4			
	くつかくし	4			
	うまとび, うまのり	2			
たこあげ	1				
こま	こま	2	8(1.2)		
	陣取り	2			
	びーだま	1			
	まりつき	1			
	めんこ	1			
	けんだま	1			
	自然遊び	虫取り		13	22(3.3)
		魚つり, 魚とり		2	
雪あそび		2			
木登り		2			
草, 花あそび		2			
	きもだめし	1			
ボール遊び	ドッジボール	71	124(18.6)		
	サッカー	20			
	バドミントン	14			
	ソフトボール	14			
	バスケ・バレー	5			
遊具遊び	一輪車	49	109(16.4)		
	ローラースケート	41			
	フラフープ	18			
	キックボード	1			
	ブランコ	38		52(7.8)	
	鉄棒	9			
	砂遊び	5			
計			665(100.0)		

付表4 2000年頃の子どもの遊び

	数	%
室内遊び	425	71.1
戸外遊び	173	28.9
合計	598	100.0

室内遊び

ブロック	遊び	数	小計	
昔からの遊び	トランプ	17	59(13.9)	
	人形あそび	15		
	ままごと	13		
	絵、絵本	9		
	おりがみ	3		
	あやとり	1		
	かるた	1		
観る遊び	まんが	38	56(13.2)	
	テレビ	12		
	ビデオ	6	57(13.4)	
	カードゲーム	46		
	カードあつめ	11		
テレビゲーム	テレビゲーム	114	192(45.2)	
	パソコン	38		
	ファミコン	35		
	インターネット	5		
高価おもちゃ	携帯電話	9	54(12.7)	
	ペットロボ	7		
	ブロック	7		
	プリクラ	6		
	パズル	5		
	ミニカー	5		
	プラモデル	4		
	化粧あそび	4		
	ラジコン	3		
	たまごっち	2		
	レジスター	2		
	カラオケ	7		7(1.6)
	計			

戸外遊び

ブロック	遊び	数	小計
昔からの遊び	おにごっこ	15	38(22.0)
	なわとび	11	
	かくれんぼ	9	
	ぼこぺん	1	
	だるまさん	1	
	どろけい	1	
	魚つり、魚とり	3	
	虫取り	1	
	どろだんご	1	
ボール遊び	サッカー	29	71(41.0)
	ソフトボール	23	
	ドッジボール	11	
	バスケ・バレー	8	
遊具遊び	ローラースケート	20	44(25.4)
	一輪車	12	
	キックボード	11	
	フラフープ	1	
	ブランコ	15	
計			173(100.0)

参考文献

- 1) 『国民生活白書 平成7年版 戦後50年の自分史-多様で豊かな生き方を求めて』, 経済企画庁編, 1995
- 2) 『子どものからだと心 この20年』, 藤原義隆 他編, 青木書店, 1983
- 3) 『おかしいぞ子どものからだ』, 正木健雄著, 大月書店, 1995
- 4) 『子ども白書2000年版』, 子どもを守る会編, 草土文化, 2000
- 5) 『子どもの健康と生活環境』, 青木継稔 他編, 子どもたちにかかわる生活環境・生活形態と健康影響との関連性 (逢坂文夫), 金原出版, 2000
- 6) 『子どもの遊び その指導理論』, 小林芳文著, 光生館, 1984
- 7) 『子どもの世界の遊びと流行』, 深谷昌志・深谷和子編著, 大日本出版, 1990
- 8) 『あそびの子育て学』, 小嶋謙四郎著, 築地書館, 1989
- 9) 『子どものからだ 科学的な体力づくり』, 宮下充正著, 東京大学出版会, 1980
- 10) 『育児の生理学 医学から説く科学的育児論』, 瀬江千史著, 現代社, 1987
- 11) 『国民衛生の動向2000年版』, 厚生統計協会, 2000
- 12) 『必修衛生学公衆衛生学』, 井上俊 他編, 環境保健 公害及び大気 (今井正之), 南江堂, 1979
- 13) 『ヒトになる, 人間になる』, 正木健雄著, 創教出版, 2001
- 14) 『小児科臨床, 48 (増刊号)』, 育児と生活環境, 逢坂文夫, p.1620, 1995
- 15) 『遊びと街のエコロジー』, 木下勇著, 丸善, 1996
- 16) 『足のはたらきと子どもの成長』, 近藤四郎著, 築地書館, 1981
- 17) 『疲労の研究』, 大島正光著, 同文書院, 1979
- 18) 『疲労 その生理的・心理的・社会的なもの』, 斎藤良夫著, 青木書店, 1981
- 19) 『親と子のメンタルヘルス 現代家族と子育て』, 棚橋昌子・白石淑江編著, 社会の変貌と子育て (井深淳子), 中央法規出版, 1997
- 20) 『VDT・健康セミナー テクノストレスとその対策』, 西山勝夫 他編著, VDT作業に伴う健康障害とその対策 (宮尾克), 労働経済社, 1984
- 21) The Effect of VDT Work on the Fluctuations of Accommodation, Masako Tanahashi etc., Industrial Health, 24, P.173, 1986
- 22) 『健康科学の課題と展望 学校保健の諸問題をめぐって』, 伊藤章編, テレビゲーム及びコンピュータ利用教育における健康問題 (坂田利弘), 東山書房, 1990
- 23) 『VDT健康診断 Q&A』, 全国労働衛生団体連合会編, 1992
- 24) 『手のうごきと脳のはたらき』, 香原志勢著, 築地書館, 1980
- 25) 『手と脳』, 久保田競著, 紀伊国屋書店, 1982
- 26) 『子どもの世界』, 永野重史・依田明編, 子どもと自然 (中沢和子), 新曜社, 1983